

平成 18 年 5 月 7 日

武庫川流域委員会
委員長 松本 誠様

武庫川流域委員会
委員 伊藤益義

整備計画の検討について（提案）

先日の第 40 回委員会では膠着状況になっておりますが、下記のとおり整理してみましたのでご審議をお願いします。

記

1. 新規ダムについての県の原案はこれまでの武庫川ダムとなんら変ることなく、知事から再検討を指示された内容についての回答が出ておりません。従って委員会として容認することは不可能です。
 - (1) 武庫川峡谷に対する環境負荷は軽減されていません。
 - (2) その他の諸問題についての解決策も提示されていません。
 - (3) 穴あきダムは下流の洪水対策に対して万全ではありません。ダムについて知事から指示された事項の検討結果が示されない限り検討はできません。

2. ダムのない場合の治水対策については整備計画の甲武橋地点での高水流量によりますが、高い流量となった場合、これまで検討対象から除外してきた新規ダム以外の諸対策（河道対策、流域対策）についても検討しいなければなりません。
 - (1) 県はこれまで新規ダムさえあれば問題解決するという姿勢が変わらず、総合治水対策について消極的でした。『どうすれば実現可能か』という前向きな取り組みを期待します。
 - (2) 総合治水対策について真剣に取り組まないと武庫川の治水はできないことを肝に銘ずるべきです。

以上